

会議名	令和7年度 第3回 板橋区産業活性化推進会議
開催日時	令和7年12月15日（月）14時00分から15時30分まで
開催場所	板橋区役所 災害対策本部室
出席者	14人 〔委員〕 山田 敏之氏 中西 穂高氏 岩月 宏昌氏 齋藤 得彌氏 木村 博之氏 大矢根 康隆氏 梶山 祐美子氏 岡田 晴一郎氏 家田 彩子氏 〔区側出席者〕 藤原課長 山川課長 平田課長 木内支所長
会議の公開（傍聴）	<u>公開（傍聴できる）</u>
傍聴者数	0人
議 題	(1) 板橋区産業振興構想 2035 原案及び今後の運用 (2) 意見交換
配 布 資 料	1. 次第 2. 板橋区産業振興構想 2035 原案（概要版） 3. 板橋区産業振興構想 2035 原案
所 管 課	産業経済部 産業振興課 産業支援係 (3579-2172)

以下、議事要点

●確認及び紹介

▷産業振興課長

配布資料の確認、関係課長の紹介。

●会議の公開について

▷会長

付属機関等の会議の公開に関する基準に基づき公開されることを説明。

●議題（１）板橋区産業振興構想 2035 原案及び今後の運用

▷産業振興課長

資料「板橋区産業振興構想 2035 原案（概要版）」に基づき説明。

（修正箇所、将来像のイメージ図を追加したことについて、委員から承認。）

今後の推進体制について説明。

—委員意見—

（委員）よくまとめられている。どう進めていくかが大きなポイントとなる。ステークホルダーが多様となるので、交流できる場をつくり実現に向けた意見交換が必要。自分事として捉えてくれるステークホルダーをどれだけ巻き込めるか、交流の仕組みが大事。スタートアップにも力を入れている大学として、金融機関なども含め区と連携したい考えで、幅広く取り組めるとよい。

（事務局）

事業者意見を聞く機会として、東京商工会議所分科会をはじめ、産業連合会役員の方々とも構想 2035 と連動した動きについて意見交換することができた。構想 2035 に関心を寄せてくれる方を増やせてきた実感があるので、これからさらに広げていきたい。

（委員）

KPI に設定している「割合」などの測定は難しいと推察する。しかしながら、これがしっかりできると、これまでと異なった評価ができると思う。その推移を見ながら、施策に反映していき、みなさんに知らしめることが重要。スタートアップはスタートアップだけでは発展できない。既存企業の技術力などの情報とうまくつなげられると、（区の持つネットワークのみではなく東京商工会議所なども含め）エコシステムができてさらに面白くなると思う。

（委員）

他業種と同じ温度感を持つことは難しいが、農業分野でできることを着実にしていきたい。

（事務局）

農業は板橋区の代表的な特徴をもつ産業のひとつであり、今後、農地減少は避けられないとしても、農の持つ価値や魅力を区はしっかりと活かし、新しい農を大事にしていきたい。あらゆる機会を捉えて工商農が連携し、区民の豊かさにつながるよう尽力していく。

(委員)

何がどう変化していくか、どう動かしていくかが重要。どの時期に測るかによって捉え方が変化する。課題が出たとき、どのように対処していくかを盛り込んでいく必要があると感じている。目標値に達していなかった場合、次年度どのようにしていくか、どの時期にどのように検討していくかの仕組みをつくりだすことが重要なテーマとなる。

(事務局)

KPI 導出にあたっては、一定の事業者への調査が必要で、現状は基準値がない状況。来年度、調査実施後に目標値を議論していく必要がある。みなさまのご意見をいただき進めていきたい。数値のみでの達成・未達成より、重要となることはめざすべき目標値達成に向けた動き方と認識している。

(委員)

やりっぱなしではなく、毎年変化を捉えながら、改善を重ねていくことが重要と思う。

(委員)

具体的に、KPI①「経営基盤を維持している区内事業者の割合」とあるが、経営基盤を維持しているとは、何をもって定義すると考えているか。

(事務局)

経営基盤の維持は、総資産における利益率とするか、ヒト・モノ・カネ・情報がある状況かなど考えられると思っている。現時点では、すべての項目の定義を説明はできず、次年度に検討していく予定。

(委員)

現状値の把握が重要となる。最初が肝心。

(事務局)

設定しようとする定義や数値は、事業者や関係者の納得できる定義が必要と考えている。

(委員)

KPI 指標について、みんなが納得できる定義をつくるのは時間がかかり難しいかもしれない。例えば、日銀が出している景気観測は、みんなの感覚をアンケートとして取得している。場合によっては、「あなたは昨年に比べて経営基盤が整ったと思いますか」というシンプルな質問設計というやり方もある。

(委員)

時代や世の中の潮流から柔軟に変えていく姿勢はとても良い反面、曖昧に感じる場所もあるので、本筋はぶれずにやっていくことを具体的に示すことができると、さらに住民・事業者・経営者は安心するのではないかと。やりながら発信し、PR し続けていくことが必要。

(事務局)

進行管理は大事と捉えている。本構想の進行管理を、区のみではなく、多様な主体の皆様に関わってもらい判断していく。まずは調査で現状値の把握、目標値の設定を行い、みなさまに広く知らせていき、一部の方たちのためにならないようしていきたい。

(委員)

将来のめざす状態が分かりやすくなって、イメージも変わり、とても嬉しく感じる。評価・推進体制について、評価委員会が立ち上がるのか。推進体制はどのようになるのか、多様なプレイヤーが様々交わる図があるが、組み合わせイメージなどあるのか。イノベーションについても、すべて区が把握するのか、関与しない部分もあるのか。

(事務局)

評価・推進体制については、イメージとしては検討会のような組織をつくり協議し、最終的には活性化推進会議にて最終助言をいただくことを想定している。イノベーションについては出会いの機会を区が設定し、マッチングや開発など支援していくことを想定している。

(委員)

2035年の将来像がすごく分かりやすくなり、区民にも伝わりやすいものになったと思う。このような将来像が伝わったら、わくわく感をもって事業をすすめられるので、限られた人だけではなく、多くの方に構想 2035 を知ってもらい、将来像に向かって進んでいけるようになると、とても良い区になると思う。周知の仕方や PDCA の回し方、評価の仕方、変化する収益構造、環境変化を捉え連携しながら、途中で立ち止まりながらゴールをぶれずに発信できると良いと感じる。

(委員)

KPI 評価については、施策が機能しているかの相関を見ていけると良いと思う。推進体制については、事業者が当事者意識をいかにもてるか、イノベーションで儲かるかが重要。福井県の事例で、様々なプレイヤーを巻き込み成功した事例がある。板橋区でも出会いの場をどのように創出できるかが重要。

大学として、学部別に区との連携はあるものの大学全体としては巻き込めていないところがある。大学の地域連携センターにお声がけいただくと人的資源は多くあるので、貢献できると思う。

(事務局)

KPI については、事業の定量的評価や客観的数値を含め評価していく。推進体制については、当事者意識を持っていただき、どのようなメンバに入っていただくかが重要と考える。

事業者、金融機関、様々な団体とからみながら推進していきたい。個々の事業推進という点ではなく、事業同士を結び付けながら進めていく。いたばし産業見本市も、今年も多くの方に関わっていただいた。

起きたイノベーションすべての把握は難しいが、生まれることは望ましいこと。情報はキャッチできるようなきっかけを持ち、体制を整えたい。事業者にとって、魅力があり関心を寄せていただける取組を行い、各支援機関と工夫していきたい。

●議題(2)意見交換

▷委員からの質問・意見

(委員)

できあがった構想 2035 について、定期的に進捗を聞き、意見交換できる場が継続すると良いと思う。今後どのように変わるかを見守っていききたいと思う。

(委員)

板橋区は、工業・商業・農業がそれぞれあり、大学・研究機関も資源がある。構想2035のゴールが、今後の板橋の未来につながるとわくわくになる。誰もがそこに向かう未来になるとよい。

(委員)

10年後はまだ完全に農業がなくなるわけではないと思うので、人材育成など区に担ってもらいながら、工商との連携も図っていきたい。板橋農業の認知をあげることも意識していきたい。

(委員)

将来像を可視化できたことはとても良い。板橋らしさの施策を全面に出していったほしい。都会＝商業のイメージがある。商業についてももう少し深堀できると良い。いたばし産業見本市に初めて参加したが、エンド商品ではないので、区民子どもにはわかりにくさがある。区が子どもを刺激する仕組みをできると良いのでは。一緒にがんばりましょう。

(委員)

2ページを見て板橋に住みたい人が増えると良いと思う。働く場と住まいが近いことが良い。板橋に住むことで、働くこともでき、豊かさもあり、子育てしやすい、はメリットとなる。エンド商品を見せることは意義あると思うので、子どもだけではなく大人向けの工場見学ができると良い。崎陽軒やサントリーの工場見学も参考にするとよい。

(委員)

金融機関としても数字を見つつ、工場も見ることは大事という認識。構想策定した後、そのスタートが重要。みんなで流布していくことが必要。様々な気づきを他者からももらいながら持ち寄ってPDCAまわしながらわくわくを回していくと良い。

(事務局)

企業や大学・研究機関を回るなかでわくわくしている。ものづくり製品を話す社員がとても輝いている。区民・子どもが産業を好きになっている状態は、事業者にとっても良いこと。職員がまず現場を知り発信していくことが重要と考える。職員一丸その思いで職務に当たっている。

KPIについては、産業の成長発展を願うための指標、姿勢として、取り組んでいく。

(委員)

概要版2ページ目はとても良いと思うので学生にも見せていきたい。蓮根朝市が最近とても活発。新しい出店者もいる。キーマンを据えて動いてもらうことで推進しているイメージもある。

(事務局)

商業の基盤も区の大事な資源となっている。いたばし Pay というデジタル地域通貨はキャッシュレス増、地域内での消費、社会課題への解決を含め実施している。さらなる発展をめざしたい。

会議の内容は、以上のとおりである。